

めでたく満100歳

橋本繁さん(米五町)・武藤美代さん(小浜)・伊藤キクさん(渋川)

この世に生を受けて一世紀、9月16日に橋本繁さん(米五町)、27日に武藤美代さん(小浜)、10月10日に伊藤キクさん(渋川)がめでたく満100歳を迎えられ、二本松市から賀寿、同じく福島県から賀寿と木杯が贈られました。

長寿の秘訣について、橋本さんは「好き嫌いなく、何でも食べること。毎晩、晩酌をすること」、武藤さんは「自分で出来ることは自分でやること、好き嫌いなく、何でも食べること」、伊藤さんは「好き嫌いなく、何でも食べること」だそうです。皆さんのますますのご長寿をお祈りします。



▲武藤美代さん



◀伊藤キクさん



橋本繁さん▶

災害に備え救助や消火などの防災訓練を実施 二本松市岩代地区防災訓練

9月18日、二本松市岩代地域防災訓練が新殿小学校で行われました。市をはじめ、二本松警察署、北消防署、消防団や赤十字奉仕団など約500人が参加し、震度6強を記録し、家屋倒壊や火災が発生したという想定で訓練に臨みました。倒壊家屋に巻き込まれた車両に運転手が取り残されたという設定での救助訓練や、粉末消火器、水消火器での初期消火を体験し、参加者は災害時に取るべき行動などを改めて確認していました。

▼初期消火訓練をして被害を最小限に



▲家屋倒壊に巻き込まれた車両に取り残された運転者を救助する訓練

二本松市民体育祭・平成28年市民栄誉賞 各競技で地域代表による熱戦

9月25日、城山総合体育館・グラウンド等を会場に第11回市民体育祭が開催されました。

開会式の席上、各種競技で全国大会などで活躍した選手等へ新野市長から市栄誉賞(8人・2団体)、佐藤体育協会長から体育協会表彰(39人・7団体)が授与されました。引き続き行われた球技大会では、各地域の予選会を勝ち抜いた代表チームが熱戦を繰り広げ、ソフトボールは石井七区チーム、バレーボールでは大平六区チーム、卓球は杉田チームが優勝しました。

市民栄誉賞を受賞された方々をご紹介します(敬省略)

陸上	佐藤 智美(原セ)	綱引き
水泳	安齋 叶空(亀谷)	木幡べんてんジュニア
カヌー	小久保南海(郭内)	ソフトテニス
	鈴木 康大(針道)	二本松第一中学校
	小久保海杜(郭内)	男子ソフトテニス部
	青木 瑞樹(細野)	
	斎藤 望生(太田)	
	桜本 結愛(木幡)	



ほんとの青空に響き渡る音色 二本松市小学校鼓笛パレード

9月30日、第62回二本松の菊人形開催を祝し広くPRするとともに、公德心の高揚と交通事故防止、安全な市民生活の実現の意識を高めようと、二本松市小学校鼓笛パレードが開催されました。二本松市内15小学校の児童(約1,000人)と交通安全団体等の皆さんによるパレードは、本町通りコースと根崎・竹田通りコースの2コースで行われました。沿道に詰め掛けたたくさんの皆さんから温かい声援を受け、児童たちの元気いっぱいの演奏が、ほんとの二本松の青空に響き渡りました。



1



2



4

▲1・2・3は本町通りコース
4・5・6は竹田根崎コースの様子



3



5



6

子どもたちに動物に触れ合う機会を 市内の幼稚園でアニマルホームルーム開催



▲ヤギやインコなどそれぞれの動物に触れ、触感や体温、動き方などの違いを目で見て触れて体感する園児たち

動物に触れ合う機会が少ない子どもたちに、動物のさわり方、だっこの仕方など実際に動物に触れ体感しながら学んでもらおうと、東北サファリパークが企画した「アニマルホームルーム」が、市内の二本松カトリック幼稚園で開催されました。

幼稚園には、ヤギ、インコ、ペンギン、ヘビが園児たちを出迎え、動物にも哺乳類、鳥類、爬虫類など種類があり、それぞれに特徴があることを、子どもたちは真剣なまなざしで飼育員を見つめ、説明に耳を傾けていました。目を輝かせて動物に触れた子どもたちは「生きているものの素晴らしさ」を肌で感じていたようでした。

台湾からのツアー客をおもてなし 3泊4日インバウンドツアー

9月15日から18日まで3泊4日の日程で二本松市内をはじめ、県内の観光地を巡る台湾からのツアー客160人をもてなそうと、二本松市内で歓迎パーティーなどが開催されました。

チャーター機で福島空港に到着した一行を、市の関係者、福島県観光交流課の職員などで出迎え、盛大に歓迎しました。ツアー初日の夜は、岳温泉で二本松少年隊による華麗な演舞、和雅美太鼓の演奏などで歓迎パーティーが開催され、多彩なおもてなしを楽しんでいただいた様子でした。翌日は二本松美容師会の協力で浴衣の着付体験や、霞ヶ城公園内にある洗心亭では、婦人会の皆さんによる抹茶と和菓子の振る舞いがあるなど、日本文化を堪能していただきました。



▲福島空港にて熱烈歓迎を受けるツアー客



▲来日初日岳温泉での歓迎パーティー



▲浴衣姿で抹茶と和菓子をいただく純和風のおもてなし

台湾で人気のアイドルグループ「Spe Xial (スペシャル)」のメンバー2人もサプライズで参加し、良い旅の思い出で締めくくりました。

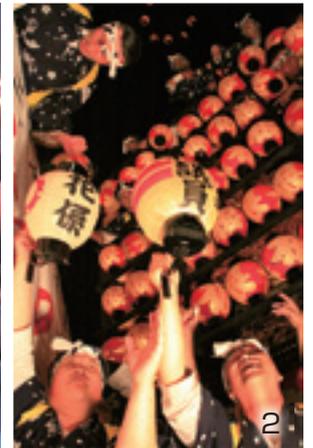
提灯祭り・紋付祭り・あばれ山車 歴史と伝統、二本松の秋祭り

「二本松の提灯祭り」は10月4日から6日まで開催され、7台の太鼓台が揃う初日の宵祭りには、約10万人の市民や観光客が訪れました。威勢のいい掛け声とお囃子は、3日間、秋の夜空に響き渡りました。

10月9日には、各字の若連が紋付袴の正装で祭事を行う「小浜の紋付祭り」と、太鼓と鐘が鳴り響く中、山車が勢いよくぶつかり合う「針道のあばれ山車」が開催されました。歴史ある二本松の祭りは、夏から秋への季節の移り変わりを感じさせてくれました。



1



2



3



4

1、二本松神社から太鼓台が待つ出発式会場まで若連がたいまつを灯し向かう(提灯祭り) 2、各字ごとに太鼓台が出発(提灯祭り) 3、紋付袴姿の若連たちが太鼓台とともに町内を練り歩く(紋付祭り) 4、若連衆は白装束に鉢巻きを身につけ威勢よく山車をぶつかり合う(あばれ山車)

テーマは「気 indication」重陽の芸術祭 福島現代美術ビエンナーレ2016

2年に1度開催する福島ビエンナーレは、10月8日から二本松市を中心に「重陽の芸術祭」として開幕しました。斬新な現代アート作品が、大山忠作美術館や智恵子の生家など、市内では13会場に展示され、訪れた人々に驚きや感動を与えています。この芸術祭は、11月6日まで開催されます。



1、大山忠作美術館には、若手作家の絵を中心に展示 2、二本松工藝館には通常の5倍の大きさの「アリスの椅子」を展示 3、智恵子の生家には、作家小松美羽氏が智恵子の多面性を表現した「ふすま絵と灯笼」などが展示



2



3

あっぱれ！ニッポン！～世界に誇れる日本人～ 第62回菊の祭典 二本松の菊人形

10月10日、県立霞ヶ城公園を会場に「二本松の菊人形」が開幕しました。今年は、会場内に福島現代美術ビエンナーレ作品のひとつで大型人形「フローラ」が展示され、制作した現代美術作家のヤノベケンジ氏と増田セバスチャン氏も前日の開幕式のテープカットに加わり、菊人形の開幕を祝いました。菊人形は11月23日まで開催していますので、ご家族皆さんでぜひお越しください。



▲写真右から現代美術作家のヤノベケンジ氏と増田セバスチャン氏、二本松市観光大使の大山采子さんらがテープカット。 ▶全長6mの花の女神「フローラ」も観客を圧倒させる。



第10回市町村対抗県軟式野球大会 二本松市チーム準優勝!!



▲過去最高の準優勝となり、笑顔で喜びを分かち合う選手

9月10日に開幕し、10月9日に決勝戦が行われた市町村対抗県軟式野球大会において、二本松市チームは、駆け付けてくれた大勢の市民応援団の声援のもと、過去最高の準優勝と健闘しました。

それぞれの仕事の合い間をぬって練習を重ねてきた選手たち。本当にお疲れさまでした。



from ^{かんの}菅野 ^{ちさと}千里(二本松市金色出身)

青年海外協力隊員として今年3月末にフィリピンのボホール島へ派遣。その後、間もなくして届いた菅野さんのレポートには、フィリピンで最初に受けた印象などが書かれていました。
今回はその一部を紹介します。



▲ボホール島の市役所で、現地の職員と写真にうつる菅野さん(右から2番目)。菅野さんは平成27年度第4次隊としてJICA二本松訓練所で訓練後、フィリピンのボホール島へ派遣される。現地では、住民のコミュニティーの中に入り込んで、ごみの分別意識を高めるなどの環境問題に取り組んでいます。

3種の言葉を使い分ける

賢いフィリピン人

フィリピンは、英語が話せる人口が世界で3番目に多い国。そのおかげで多くのフィリピン人が海外で働くことができているそうです。フィリピン人は英語を普段から話していると思っている人が多いかもしれませんが、実は、公用語は英語とタガログ語で、その他に現地語も存在します。たとえば、ボホール島で暮らすフィリピン人の多くは英語、タガログ語、ビサヤ語(現地語)を話します。英語で学校の授業を受けて、タガログ語で友人と話し、家に帰るとビサヤ語を話すということも不思議なことではありません。最低3種の言語を使い分けるフィリピン人、本当に賢いと思います。



▲島のレストランで食事

1日5食 食べることが大好きな フィリピン人

フィリピン人は、朝昼晩の食事の間におやつを食べる習慣があり、それをミリエンダと呼びます。おやつといっても、チョコレートやアイスなどのお菓子だけでなく、人によっては、パスタやフライドチキンなど、がっつり食べる人もいるというから驚き。職場にミリエンダを売りにくる人がいて、仕事の合間に食べることもしばしば。お腹も満たさずして仕事はかどるのかな？日本では考えられない光景ですが、フィリピンで生活すると当たり前の光景です。



4人も乗れるバイク

私の住むフィリピン・ボホール島での主な交通手段は、トライシクルです。トライシクルとは、サイドカー付きのバイクのことであり、運転手の他に4人程乗ることができます。初乗り料金は8ペソで、日本円で17円。年中暑くて歩くことが好きではないフィリピン人は、1キロという短い距離でもトライシクルを探します。